

令和 6年度予算見積調書

課室名：青少年課
 担当名：企画・非行防止担当
 内線：2905

(単位：千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業	
P46	バーチャルユースセンター（仮称）事業			一般会計	総務費	県民費	青少年育成指導費	青少年総合支援事業費	
事業期間	令和 6年度～ 令和 8年度	根拠法令	子ども・若者育成支援推進法第13条			針路	05 未来を創る子供たちの育成	SDGsゴール	1, 4, 10
						分野施策	0502 豊かな心と健やかな体の育成	SDGsターゲット	1-2, 1-b, 4-5, 10-2
1 事業概要 居場所の数が多い子供ほど自己肯定感が高く、将来に希望を持っている。子供が自由に選べる居場所は、地域に加えてより身近なバーチャル空間にも設置して多様性を確保することが必要である。 そこで、バーチャル空間に居場所となる場を整備することで、あらゆる子ども・若者に「居場所」があり、活躍でき、安心して暮らせる埼玉県を目指す。 バーチャルユースセンター（仮称）事業 18,860千円				5 事業説明 (1) 事業内容 メタバース空間に、小学生から義務教育終了後の大学生程度までの子ども・若者が安心して気軽に参加でき、体験・交流・相談等の機能を備えた新たな居場所として、バーチャルユースセンター（仮称）を構築。 令和6年度は、試験的に運用して本番運用に向けた運営方法などを検討する。 (2) 事業計画 ・メタバース空間での居場所の運営 ・居場所運営の検討会議を実施 (3) 事業効果 リアルの他にバーチャルにも居場所を整備することで、あらゆる子ども・若者に多様な居場所があり、将来の夢や目標を持つなど、自己肯定感を高めることができる。 また、居場所で大人と信頼関係を構築することによって、子ども・若者が生きづらさを感じることもあっても、気軽に相談し、適切な支援により生きづらさを乗り越え、生き生きと活躍することができる。 【活動指標(アウトプット)】 居場所の運営（利用者160人/年）、検討会議（5回程度）、相談（50件/年） 【成果指標(アウトカム)】 ・「居場所だと感じる」と回答した利用者の割合 50% ・居場所の設置により早期相談や深刻化の未然防止が図られたと感じる支援者の割合 80%					
2 事業主体及び負担区分 (県10/10)									
3 地方財政措置の状況 なし									
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 (1) 人件費（既存分） 0円 (2) 人件費（増員分）9,500千円×1人=9,500千円 (3) 組織の新設・改廃 なし									
予算額		財 源 内 訳						一般財源	前年との 対比
決定額	18,860							18,860	18,860
前年額	0							0	

事業内訳書

事業名	バーチャルユースセンター（仮称）事業		
単位事業名	バーチャルユースセンター（仮称）事業	予算額	18,860千円

○歳入

（単位：千円）

款・節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
一般財源	18,860	18,860	
合計	18,860	18,860	

○歳出

（単位：千円）

節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
報償費	1,005	1,005	検討会議謝金 345千円 体験・交流等謝金 660千円
旅費	67	67	連絡調整旅費等
役務費	1,430	1,430	広報費用 1,100千円 研修費用 330千円
委託料	16,259	16,259	ユースセンター運営委託費
使用料及び賃借料	99	99	検討会議会場使用料
合計	18,860	18,860	